

学校法人木下学園 カナン国際教育学院

2022年度 自己点検・評価

5：達成している／4：ほぼ達成している／3：どちらともいえない／2：取り組みを検討中／1：改善が必要

1. 教育の理念・目標等

評価

1-1	学校の理念・目標や育成する人材像は明確となっているか	5
1-2	学校の理念・目標は全教職員に共有されているか	5
1-3	学校の理念・目標や育成する人材像は社会のニーズに合致しているか	5
1-4	学校の将来構想は策定しているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は留学生の進学に特化した日本語教育機関であり、学校理念の一つに「世界で活躍できる人材の育成」を開校当初から掲げている。

全教職員が出席する半年に一度の会議の場や、入学式等の式典の際には、その意図や意味について全教職員はもちろん学生にも繰り返し伝えている。また、常に学院全体として学校理念に対する共通認識が持てるよう、各国後に翻訳した学校パンフレットへの記載、ホームページへの公開、学内各所への掲示など明文化を行っている。加えて、専任教職員の評価軸となる目標管理シートにおいては、学校理念・教育目標を元に各部の目標が設定されており、各専任教職員がこれらを元にして各自の目標を設定をしている。

一方で年々変化する社会のニーズを的確に捉え、その時代にあった人材を育成・輩出できるよう、常に新しい情報を元にした教育手法等を柔軟に取り入れている。

実際の授業では、試験対策はもちろん、日本の文化や習慣、ビジネスマナーなどのインプット学習を行い、それらをアウトプットできる場として学校のイベントを豊富に用意している。これらのイベントはただ参加をさせるといった受動的なものではなく、このイベントの参加目的を留学生に明示をし、留学生が意識をもって能動的に参加することで、個人の確かな成長につなげている。

学校の将来構想については、中長期計画にて10年計画を定めており、各メンバーが中長期計画を念頭に置いた上で日々の業務を行っている。また、半年に一度開催される全教職員会議の場においてもその進捗度合いと新たな計画や変更点についても明示し共有している。学校として、現状維持を求めるのではなく、常に進化を求めてより良い教育にし、より良い環境を全学生・全教職員に提供するために、教育機関としての体制を強化することを目指している。

2. 学校運営

評価

2-1	日本語教育機関の告示基準は満たしているか	5
2-2	学校の理念や目標に沿った運営方針や事業計画は策定されているか	5
2-3	組織運営や意思決定システムは整備されているか	5
2-4	人事や賃金、財務管理に関する規定は整備されているか	5
2-5	コンプライアンス体制は整備されているか	5
2-6	危機管理体制は整備されているか	5
2-7	IT化等による業務の効率化は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

告示基準については、校長・副校長を中心に全専任教職員に向けて日本語教育機関の告示基準のレクチャーを行い理解醸成に努めるだけでなく、各部部长が業務内において告示基準から逸れることがないように精査を行っている。

組織については、それぞれの部、チームのリーダーに権限移譲をし、各リーダーが責任を持って各メンバーに指揮を取ったり、意思疎通を図ったりしている。また、行事においては部を跨いだチーム編成をしているため、横のつながり、コミュニケーションの強化に結び付いている。

そういった組織の土台が形成できているため、意思決定システムについては、各部、各チーム内において自らが積極的に行動、議論し、挙げられた意見を基にボードメンバーが最終決定をするといったように、ボトムアップで意思決定を行う体制を整えている。しかしながら、緊急時にはボードメンバーによるトップダウンで意思決定、指示を行うなどして、臨機応変に対応している。

コンプライアンスについては、毎年ハラスメント研修、個人情報、情報セキュリティの研修等を行い、リテラシーの向上に努めている。

危機管理体制について、本校独自の「学校危機管理対応マニュアル」を作成・運用しているが、新型コロナウイルス感染症での経験を踏まえ、当校の対応例をまとめて追記をしている。また、年1度の本校独自の災害対策動画（地震編・火災編）を用いた避難訓練と、年1度の防災体験を従来より引き続き実施しており、その後の反省会の内容を元に常にアップデートを行っている。また、情報共有の面において、災害による休校などの際には、当校使用のSNSを通じていち早く情報発信を行うこととしており、学生・全教職員にもそのフローを周知している。

IT化については、常に業務の効率化を目指し新たなツールなどの導入により推進を続けている。各教室におけるWi-Fi設備の増強はもちろんであるが、ICT教育の一環として一部に留学生がスマートフォンを使う授業を行っているため、学校内全ての場所において留学生がWi-Fiに接続できる環境に整備している。

3. 教育活動

評価

3-1	教育理念に沿った教育課程(カリキュラム)は体系的に編成されているか	5
3-2	成績評価や進級、修了の判定基準は明確、且つ適切に運用されているか	5
3-3	教員の指導力(教育の質)向上のための取り組みは行っているか	5
3-4	教育課程(カリキュラム)の改善のための取り組みは行っているか	5

《現状・具体的な取り組み/課題》

本校の教育理念である「世界で活躍できる人材の育成」を目指し、初級・初中級・中級・上級・超級の各コースで確実にステップアップできるように目標を立てている。

授業に関しては、主に課題遂行型の教授法を取り、身近なテーマから社会的なテーマまで、知識を獲得するとともに自らが運用できる能力を養う。試験対策授業では、JLPTN2以上合格、EJUでの高得点を目指し、試験を解くコツを学び、上位の大学・大学院への進学を目指す学生向けには特進コースも設置している。

評価に関しては、各コースでクラスごとの復習テストと学期終了時の定期テストを基に、学生の到達度と熟達度判定を行っている。

定期的に講師勉強会や授業見学会を行い、教授法や学生との関わりについて積極的に意見交換をし、このときに学期末に行う授業アンケートから、学生からの声（ニーズ）も取り上げ、反映している。

この授業アンケートや学生の成績の伸び率、講師陣からの意見を基に、定期的にカリキュラム・シラバスの見直しを行っており、主教材から副教材までの教材選定や、学生の日本語力の向上と満足度を高めることを目指している。

最終的に、学生が希望する進学先に合格し、進学後も自立できるように日本語能力の育成に力を入れている。

4. 学修成果

評価

4-1	日本語能力向上のための取り組み、把握は適切に行っているか	5
4-2	各種試験の合格率或いは成績向上のための指導体制は整っているか	5
4-3	進路が決定するまでの指導、把握は適切に行っているか。	5

《現状・具体的な取り組み/課題》

1. 日本語能力向上のための取り組み、把握

知識面では、学期末に定期試験を行い、教科ごとの成績と講師からの評価が記載されている通知表を配布して、各自弱点の把握に役立てている。また、通常の授業では課ごとに課題遂行能力について自己評価表をつけ、セルフチェックができるようにしている。プレゼンテーションの授業やスピーチでは、講師からだけでなく、学習者同士が発表者の評価を行い、他者からの意見を得る機会を設け、視野が広げられるようにしている。以上のように、言語知識だけでなく運用面でも、日本語能力の向上につながるような取り組みを行っている。

2. 成績向上のための指導体制

成績向上のために、学期ごとに学生アンケートを実施し、成績が伸び悩む学生や学習面で課題を抱えている学生に対して定期的に個人面談を実施し、フォローをしている。

3. 卒業が決定するまでの指導体制、把握

担任・副担任の2名体制で進学面談を随時行い、志望校選定・オープンキャンパス参加・出願書類準備・志望理由書作成・面接・試験対策などの一連の流れをサポートしている。

面談内容は、面談記録シートに記入し、進捗は毎週の部MTGで確認している。問題等あった場合は担当教員だけでなく、部全体でのフォローを行っている。

5. 生徒支援

評価

5-1	学習や生活等の相談に対する支援体制は整備されているか	5
5-2	学生の身心の管理、事故、怪我等が起きた際の体制は整っているか	5
5-3	日本での生活の指導や支援、犯罪に係る防止教育は行っているか	5
5-4	防災や緊急時における体制が整備されているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

入学時にオリエンテーションとして、中国・ベトナム・英語圏など、職員による通訳を入れて、本校の新入生ハンドブック（日本語・英語語・中国語・ベトナム語翻訳あり）を使用し、生活における注意点などの説明を行っている。さらに、東京都青少年・治安対策本部より留学生向けの注意説明会の実施、必要に応じて警察署からの指導して頂くことで、学生が安心して留学生活を始められるようにサポートを行っている。

その他、年4回以上の学生向け長期休みの注意説明会を通じて、出席率、アルバイト、自転車交通ルール、生活マナーなどをテーマとして、しっかりと学生に指導している。さらには、担任を中心として、母国語を話せる職員が通訳に入って各学生と面談を行い、出席率の低下やトラブルに巻き込まれることがないように都度指導を行っている。また、学校のお知らせや注意喚起は学生管理システムを通じて徹底的に情報を共有している。

防災については、当校では危機管理マニュアルを作成し、それに基づいて、年に1度全校生徒対象として避難訓練の実施することで、日頃より緊急における体制を整備している。

6. 教育環境

評価

6-1	学校の施設・設備が十分且つ安全に整備されているか	5
6-2	実際に使用している教材は適切であるか	5
6-3	学習効率を高めるための環境整備はなされているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

教室内の備品については、破損等があった場合、即時校舎見回り担当者から報告を受けるフローにしており、新品への買替え・改修・クリーニング等必要に応じて対応している。また、備品を長期に渡り使用させるため、教職員・学生へ常に使用方法について注意喚起を行い傾注させている。

学期ごとに学生向けにその学期で使用した教材が適切かアンケートをとり、調査している。適切でない教材や成績が伸び悩むクラスに関しては、検討の上、適宜教材変更もしている。

学生には必要に応じてPC等の電子機器を貸し出し、いつでも利用できる環境を整えている。また自主学習ができるスペースとしてカフェを併設した図書館も解放する等、学生の学習意欲向上に努めている。

7. 入学者の募集 評価

7-1	入学者の募集活動、入学選考は適正に行っているか	5
7-2	募集活動の際に学校情報は正確に伝えられているか	5
7-3	授業料は適切であるか	5
7-4	定員数に応じた募集活動は行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナ禍において、渡航が可能な国については、担当者が現地に赴き、面接・書類審査を実施し入学者の選抜を行い、入国の条件が厳しい国は引き続きオンライン面接と書類審査を行っている。

募集活動においては、学校説明会などを行うことで学校の情報を正しく提供している。また、2022年度に新しく募集要項・パンフレットを刷新したことで、今後はより詳細に最新の情報を伝えることが可能となっている。

2022年度もコロナの影響によって、新入生が通常より多くなり、例年の募集人数よりやや少ない募集枠となっているが、その中で厳正に学生を選抜し、適切な募集活動を行った。

8. 財務 評価

8-1	中長期的に財務基盤は安定しているか	4
8-2	予算・収支計画は有効且つ妥当なものとなっているか	5
8-3	財務について、会計監査は適切に行っているか	5
8-4	財務情報の公開の体制は整っているか	2

《現状・具体的な取り組み／課題》

コロナの影響も軽微となってきており、徐々にコロナ前の水準に戻り、財務面に関して問題なく運営できている。コロナ禍から継続して行ってきたコスト削減については、継続して行うことができ、全職員意識して取り組むことができたと考えている。

理事会及び評議員会で承認された予算・収支について、2022年度はほぼ計画通りに推移することができており、その有効性・妥当性についても問題はない。

2021年度に続き、2022年度も先行投資としてプロジェクトへ割り当てを継続してきているが、スピーディーな判断で成長が期待できないものは外し、成長が期待できる分野は注力していくという選択と集中を行い、新規事業として結果を出せるように法人としてもサポートを行っている。

なお、財務情報の公開については、ホームページがリニューアルしたため、公開内容を整理して開示に向けて進める予定である。

9. 法令遵守 評価

9-1	各種法令等の遵守と、適切な運営はされているか	5
9-2	個人情報の保護の取り組みは行っているか	5
9-3	自己点検・評価を実施・改善は行っているか	5
9-4	自己点検・評価の公開は行っているか	5
9-5	関係省庁への届出、報告を遅滞なく行っているか	5

《現状・具体的な取り組み／課題》

本校は各種学校の日本語学校として、東京都、法務省の法令、設置基準を満たしており、また、法務省からは2005年以降適正校としての認定を受けている。今年度も適正校の認定を頂いており、18年連続での認定となった。

個人情報保護について、教職員においては人事労務関連、また学生の申請書関連もGoogleFormでの申請へ徐々に移行するなどペーパーレス化を推進することでリスクの低減につとめている。

自己点検・評価については、2017年度より実施・改善を行っており、ホームページ上でも情報の公開を行っている。

日本語教育機関に係る各種変更の届出、私学行政に係る届出においても遅滞なく実施できている。

また、2022年度には「ISO29991:2020」の認証も取得し、第三者機関から正式に国際的な基準に適合する質のものであると認められるに至った。引き続き定期審査もあるため、外部機関の協力を得て教育サービス自体の更なる質向上・サービス提供環境の改善活動を継続し、健全な学校運営維持に努める。

10. 地域貢献・社会貢献

評価

10-1 学校の資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献は行っているか

5

10-2 生徒に向けてボランティア活動への奨励・支援は行っているか

4

《現状・具体的な取り組み／課題》

2022年度は、新たに江東区の城東警察署と語学ボランティアに関する提携を締結し、要請があった際には教職員や留学生が通訳として地元の方々の手助けができるようにしている。

また、地元の江東区が主催するイベントに参加し、外国の方に向けては日本語の素晴らしさ、地元の方々や来場者に向けては日本語学校の重要性を伝えることができ、地域の発展や意識向上に寄与できたと感じている。また、このイベントでは留学生もボランティアとして参加し、実際に母語を通じて日本語や日本語学校について紹介をしたり、イベントの通訳として活躍した。

今後も引き続き、留学生にとって参加することに意義を感じることができる社会・地域貢献の幅を広げていき、実際に留学生が携わることによって彼らの成長につなげていきたいと考えている。

《総括》

本校には、3つの学院目標がある。

【学院目標】

- 1.「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
- 2.本校の学生、教職員、関わる全ての方に最適な環境を提供する。
- 3.東京都を代表する日本語学校になる。

全教職員が一丸となって全力で学院目標の実現に向けて取り組んでいる。

学校の運営においては、「学生の満足度を上げる」ことも重要項目ではあるが、その教育を提供する側の教職員が最高のパフォーマンスができるよう最適な環境を提供する必要があると捉えており、絶えず働きやすい環境を整備し、「教職員の満足度を上げる」取り組みを行っている。

また、2022年度には学生数がコロナ以前の水準に回復したことに加え、プロジェクトにおいても成果が出てきたため、財務的にも安定が見込めるようになった。

次に、本校では3つの教育理念を掲げている。

【教育理念】

- 1.「世界で活躍できる人材の育成」を目指す。
- 2.日本語教育を通じて、日本社会で自立できる人材を育成する。
- 3.学生の目標とする進学先合格に向けて最大限支援を行う。

この3つの教育理念は、教職員だけでなく学生にも選抜やオリエンテーションなどの機会を通じて伝え、浸透させている。

進学面については、独自のカリキュラムや独自の試験対策(EJU、JLPT)の実施、ツールの導入などを通じて、カナン独自の進学アセットの確立をするだけでなく、学生の声を元にアップデートも行っている。2022年度に取得したISO29991の認証では、本校の教育の質を証明することができた。

次年度以降も、これらの目標達成に向け、さらなる組織力・教育機関としての体制強化を目指し、学院一丸となり力を入れ取り組んでいく同時に、今後も「東京都を代表する日本語学校になる」という目標に向かって、積極的な取り組みや施策を通じて良い学校づくりを続けていく所存である。